

# 看護の目線を国政の場で 生かしてまいりたいと思います

高階 恵美子 参議院議員



党全国女性部(局長)・女性議員合同会議・政策研究会にて児童虐待ゼロに向けた提言について講演



こんにちは。大気の不安定な毎日ですが、健やかに過ごしましょうか。

参議院は、4月20日の問責決議から一貫して、政府が自ら姿勢を正すよう諭してまいりました。様々な憶測情報や批判の飛び交うなか、私も国会対策委員の一人として、ひたすら正常化に向けて攻防を続ける執行部の動きに接してまいりました。国会議員として3年目を迎える節目でもあり、おぼろげながら、政治を運営する、という語を意識するようにもなりました。

それにしても、わずかな糸口を示すだけの作業に45日間。いのかの臨床でも遅々として改善されない国会の異常事態によって、日一日と国益が損なわれ

ていることに、深い憂慮の念を抱いています。

一票の格差是正の取り組みは進まず、本年度予算の執行に不可欠な特例公債法案やその他重要法案の審議もなされないまま、またも過去最低の法案成立率を更新しそうな状況です。

いよいよ私たちのレッド(赤)カードを出す時機だ！それが私たちのインパクト！と、誇り高く・意気軒高に、行動する時がきていることを感じます。

### ◆◆◆新たな政権公約を発信◆◆◆

自民党では5月31日に、新たな政策ビジョン「日本の再起のための政策」を公表しました。この中に盛り込まれた

各々の政策の柱は、党所属の国会議員等が全国津々浦々で実際に人々の意見をお聞きし、また幅広い分野の学識・有識者からコメントを求めるなどして、現在の制度では足りない点、不都合だから改めるべき点を議論し、国政におけるこれからの課題を絞り込んだ結果、まとめられたものです。

ここでは児童虐待防止をテーマに、その政策立案の過程を簡単にご紹介いたします。

一昨年の秋の人事において女性局長代理を拜命した折、谷垣総裁より、次のようなご指示をいただきました。

「児童虐待防止は党をあげて取り組むべき課題のひとつ。かねて女性局長が進めてきた児童虐待ゼロ運動をいっそう

強化するとともに、党全体の方針としても、合わせて推進したい」

そこで、当時の石井みどり女性局長のご指導のもと役員会の先生方とともに戦略を考え、女性局における児童虐待防止の取り組みを「ハッピーオレンジ運動」と総称し、その年の児童虐待防止月間(11月)から1年間を運動強化期間とすることを決めて、様々な活動を実施しました。

研修会やイベントの実施、意見聴取会、相談支援機関や児童養護施設等の見学など、党本部だけでなく全国各地でも工夫をこらした運動が展開されました。

その集大成とも言つべき事業が、全国一斉アンケート調査でした。

までの期間、全国の街頭で行った自記式無記名の回答用紙は、全体で14539件と、驚くほどたくさんの方の協力を得ました。

女性局長代理としての一年間の任期を終えた後も、役員として、この貴重な形にする役割を与えていただきまして、年明けからは、入力作業の整ったファイルをもとに、研究仲間の協力も得て統計学的な分析作業を始めました。

結果の概要は次のとおり、学術的にも価値の高い成果だと考えます。

1. 子育て中の男女の約3割が「子どもを虐待する不安(虐待不安)」を感じており、男性では配偶者もしくは自分の就業形態で相違がある。すなわち、配偶者が常勤の場合は虐待不安が高まり、男性自身が常勤の場合には虐待不安が低い。
2. 虐待不安につながる「子育て上の悩み(虐待リスク要因)」は男女共通で、孤立、協力不足、子育てと仕事の不調和の順に強く、虐待不安に影響する。
3. 虐待リスク要因のある男女が、それを解消するために必要と答えた政策は、産後の母親のケアの充実、妊娠時から相談窓口の整備、パパ育職場復帰支援や保育メニューの拡充などであり、リスク要因毎に求められる政策内容を選別することも可能



3月29日厚生労働委員会において質問



である。

こうして科学的に明らかとなった政策と従来からの提案とを、児童虐待の発生過程に応じた対策(システム、物的支援、人的支援、金銭補助、その他)として一覧に整理し、最終的に児童虐待ゼロを実現するための大方針をまとめ、3月に党女性局として総裁へ提出しました。

この度の政策ビジョンには、それが採用されています。

### ◆◆◆看護の目線で復興をけん引します◆◆◆

東日本大震災復興特別委員会のもとより、予算委員会、厚生労働委員会、行政監視委員会の質疑においても積極的に攻めの姿勢で、いのかを中心に据えた政策づくりを訴えています。ただしその表現は、現実的で、短期と中長期的な取り組みを色分けして、提案口

調で伝えることを心がけています。また、必ず政策効果について触れるようにしています。

どんなにいい提案だとしても、それが実現しなければ言いつばなしで終わってしまいますし、また現実にはうまく機能せず実効性の上がない政策ならば、早めに軌道修正しなければなりません。

一人ひとりの意思、込められた言葉の意味を大切にできる看護職の議員でありたいと思っています。これからもご支援よろしくお願い申し上げます。



3月28日東日本大震災復興特別委員会にて質問